

保育園の自己評価を終えて

より良い保育に繋げていくために厚生労働省発行の「自己評価ガイドライン」に沿って今年度も着眼点一つひとつについて自分たちが行っている保育を見直すかたちで職員とともに自己評価を行いました。

今年度はコロナ禍の保育という点で、今までやってきたことができなかったという点で評価に迷う職員も多かったのですが、例年行ってきた保育を基本に評価しました。

毎年評価を行うことで着眼点を意識できる職員も増えてきましたが、経験年数が浅い職員は保育以外の着眼点の評価が低く、園と地域のつながりなどの職員も理解できるように振り返りを大切にすることで全職員の理解を深めていきたいと思えます。

また、個々の自己評価も行っていますが、それぞれの経験に応じて職員一人が求められている職責や職務内容も明確化されていますが、きちんと把握できるような面談や話し合う機会が十分に取れなかった点が評価に反映されていると認識しています。次年度は振り返りと面談や話し合いに力を入れることで職員一人ひとりの質のUPや全体の保育力向上につなげたいと思えます。

また、職員一人ひとりが法人の保育目標にもある「思いやり」を意識し、職員同士がお互いを信頼し思いやる気持ちを大切にすることでその気持ちを保育にも反映していきたいと思えます。

また、今後ご協力いただいている保護者アンケートで、保護者のニーズ等も把握しつつ、園として改善していかなければならない点を見つけ、保護者の皆様から信頼される保育園の運営をしていきたいと思えます。

令和3年3月

横浜みなとみらい保育園 園長 木下かおり